

2017/11/05

十字架の意味

「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」(I ペテロ 2:24)

イエス・キリストは、私達の罪を背負って十字架に架かりました。なぜ、イエス・キリストは十字架に架からなければならなかったのでしょうか。なぜ、神様が「赦す」と言うだけではいけなかったのでしょうか。

1. 死人に希望を与えるため

十字架を理解するにあたっては、人は肉体の死と共に死んでしまう存在だという、私達の現状を理解しなければなりません。

聖書はこの世界を「死の世界」と呼びます。それは、神と関わりのない世界ということです。悪魔の仕業によって人は神と関わりを失いました。その結果、神のいのちによって造られた人間は、そのいのちを失い、滅びるものとなりました。また、同時に、この世界も朽ちるものとなったのです。さらに、神との関わりを失ったために、人は神と異なる思いを持って生きるしかなくなりました。これが罪です。聖書は、罪とは「神の律法に逆らうこと」つまり「神と異なる思い」だと教えています。ですから、人は生まれながらに死人であり、罪人なのです。

私達はこの地上で、どんな悪人であっても、どんな富を手にしようとも、どんな成功を収めようとも、最後は必ず死という闇に飲み込まれてしまいます。生まれながらに死人である私達にとって希望となるものは、生きる者に変えられることです。つまり、「死」に対して死ぬことなのです。しかし、一度死んだ者が、もう一度死ぬことはできません。生まれながらに死人である私達は、さらに死ぬことはできないのです。そのために、イエス・キリストが、私達の死を背負って十字架に架かって死に、私達の死を滅ぼしてくださったのです。こうして、人は生きることができるようになると示してくださいました。それが復活です。

人間は、誰も死から逃れることはできず、たとえ命を絶ってもただ土に帰るだけです。死人である私達が死ぬには、キリストと共に死んでよみがえるしかないのです。十字架の死は、死人に生きる希望を与えるためのものなのです。

「それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。」

(ローマ 6:3)

「もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」(ローマ 6:5)

「もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることに必要な、と信じます。」(ローマ 6:8)

イエス・キリストを信じるバプテスマは、キリストの死に預かるバプテスマです。「イエス・キリストと共に死んだ」とは、死に対して死んで、生きる者となったということです。私達は、死に預かるバプテスマを受けたから、生きる者になり、復活する——これが、十字架の意味するところです。

「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。死んでしまった者は、罪から解放されているのです。」(ローマ 6:6-7)

私達はイエス様の十字架によって、死と決別しました。そして、死によってもたらされた罪からも解放されたのです。

マイナスにマイナスをかければプラスになるように、死が死ねば生きることになります。しかし、生まれながらに死人である私達は、もう死ぬことができないため、イエス・キリストはこの地上で唯一死ぬことができる方として来られ、私達の死を背負って十字架で死んでくださいました。こうして、私達の死は滅ぼされ、生きることができるようになったのです。イエス・キリストを信じることによって、キリストと共に死に、私達の死は滅ぼされて、生きる者となるということ、これが、十字架の死の第一の意味です。

2. 罪をいやすため

多くの人は、罪を犯すのは悪い人間だと考えます。ですから、自分で罪の責任を取るのは当然だと思うのです。しかし、聖書は、罪は、創造の初めから備わっていたものではなく、後から入ってきて私達のうちに住み着いたものだと教えています。死のとげが罪であり（I コリント 15:56）、欲がはらむことで罪は生まれる（ヤコブ 1:15）とある通り、罪は、アダムとエバが悪魔に騙されて神とのつながりを失うこと（死）によって生まれたものであり、神とのつながりを失ったこの世の情報によって欲がはらみ、さらなる罪が生まれるのです。つまり、人間にはどうすることもできない構造的な問題であるため、神様にとって、罪はさばくものではなく、後から入り込んで私達を苦しめる病気という扱いなり、取り除くべきものなのです。

罪を犯すのは悪い人間であり、罰を受けるのは当然だと思っていると、十字架の理解を誤ってしまいます。神様は私達の罪を罰しようなどと考えたこともないのです。ですから、イエス様は十字架で人間の罪の罰を代わりに受けたのだという発想は、大きな誤解です。神様にとって罪は病気です。病気とは、癒すべきものであり、罰するものではありません。罪が病気だとわからなければ、十字架の意味がわからなくなってしまいます。

「イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

(マルコ 2:17)

イエス様は、ご自分を医者だと言われました。罪人に医者が必要だということは、罪は病気だということです。「赦す」という言葉と「癒す」という言葉は、同じ原語が使われているのです。

「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」(Iヨハネ 1:9)

きよめるとは、いやされるということです。神が罪を赦すとは、いやすということなのです。

では、なぜ罪をいやすために、十字架に架かる必要があったのでしょうか。

人間は、神様との関わりを失ったことによって、神と異なる思いを抱くようになり、様々な罪を犯すようになりました。神と異なる思いの中で、最も強く人に影響を与えているのは、自分が愛されていることがわからないという不安です。それは自分の価値がわからないということです。このようにして、死は私達を支配しているのです。

この世の人々は、自分は愛されているのか、価値のある人間なのかを知るために、一生懸命、人から愛されよう、良く思われる人間になろうと努力して生きるようになりました。ところが、その結果、人の目が気になり、競争を生み出し、嫉妬や怒りを生じさせ、様々な悪事が生まれるようになってしまったのです。怒り、嫉妬、恐れ、不安、これらの根源は、愛されていることがわからないという不安です。人を支配したい、出世したい、人からすごいと思われたい…、これらの根底にある思いも、自分が愛されるのか、価値のある人間なのかわからない不安なのです。それは、この世界が、神が見えない死の世界になってしまったからです。そのために、神に愛されている自分がわからなくなり、神に価値あるものとして造られた自分がわからなくなってしまったのです。

しかし、人はそのことを知りませんから、自分が何を求めているのかがわかりません。この罪が癒されるためには、無条件で愛されていることを知るしかないのです。

「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ 5:8)

「私は愛されている」と受け取ることができれば、私達は癒されます。イエス・キリストは、この愛を示すために十字架に架かられたのです。十字架は、あなたがどんな罪人であっても、あなたを本気で愛していることを示すため、あなたのためならいのちさえ惜しまないという、愛の証しなのです。

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」(イザヤ 53:4-5)

当時の人々は、イエス・キリストの十字架を敗北ととらえ、キリスト教はおしまいだと思いました。しかし、イエス・キリストは十字架で死ぬことによって、私はあなたを愛していると示されたのです。

十字架の二番目の意味、それは、罪という病気をいやすために必要だったということです。

3. 悪魔を滅ぼすため

「罪のうちに歩む者は、悪魔から出た者です。」(Iヨハネ 3:8)

この御言葉は、「神と異なる思いは悪魔から出た」という意味であり、この世界に死が入り込んだのは、悪魔がエバをだまして神と異なる思いを食べさせたことが原因です。つまり、人は悪魔の詐欺にひっかかった被害者ということになります。そのため、神様は、悪魔に対して次のように言われました。

「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」(創世記 3:15)

これが、神様の最初の預言であり、キリストは十字架でお前を滅ぼすという意味です。聖書は、悪魔のことを「死の力を持つ者」と呼びますが、それは「神と異なる思いを持つ者」という意味です。「死」は、悪魔そのものです。私達を神と異なる思いから完全に断ち切り、再び同じことが起こらないようにするためには、悪魔を滅ぼす必要があったのです。

悪魔が人に働きかけるその実体は「恐れ」です。悪魔は、恐れを使って、人に神と異なる思いを信じ込ませ、神と違う方向に私達を進ませようとします。たとえば、「このままだと家族に不幸が起こるから、厄除けのために〇〇を買いなさい」と言われると、「これくらいなら…」と思って、つい買ってしまう心理が働くものです。このように、人は恐れによって、安易に神と異なる思いを選択します。

つまり、悪魔を滅ぼすとは、死を滅ぼすことであり、それは神と異なる思いを滅ぼすことであり、具体的には、恐れを滅ぼすことになるのです。

恐れを滅ぼすことについて、聖書は次のように教えています。

「愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。」(Iヨハネ 4:18)

悪魔の武器は恐れです。それに勝つのは全き愛だけです。

隙間のない完全な愛、それは、友のためにいのちを捨てる愛だと、十字架に架かる前、イエス様は弟子達に教えられました。イエス様は、全き愛を実行するために十字架に架かられたのです。

イエス様は、うその証言によって訴えられても、ののしられても、むち打たれても、口を閉ざし、人を裁きませんでした。そして、十字架の上で初めて口を開き、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているかわからないのです。」と祈られました。

全き愛、それは、私達のために死ぬことによって完成されます。

死とは、神との結びつきを失うことです。イエス様は、ただ肉体が滅びるだけでなく、本当の死をお選びになりました。それは、父なる神と御霊なる神との結びつきを断ち切ることです。このことは、イエス様にとって自分自身を断ち切ることであり、父なる神にしても聖霊にしても、大変な苦しみであったわけです。

「そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをいっしょに連れて行かれた。イエスは深く恐れもだえ始められた。そして彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、目をさましていなさい。」 (マルコ 14:33-34)

ルカの福音書では、この時のイエス様の苦しみ悶える様子を、聖書は汗が血のようにしたり落ちたと記しています。そして、イエス・キリストは、十字架の上で息を引き取る直前、次のように叫ばれました。

「そして、三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ。」と叫ばれた。それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。」 (マルコ 15:34)

このようにイエス様は、神との完全を完全に断ち切るというまことの死を選択なさいました。それは、全き愛を持って悪魔を滅ぼすためです。

「そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」 (ヘブル 2:14-15)

イエス・キリストの十字架は、死を滅ぼし、悪魔を滅ぼすために必要だったのです。これが三番目の十字架の意味です。

十字架で滅ぼされたので、悪魔はもう存在しません。しかし、この世界は存続しており、悪魔の残した恐れによって今も私達は悪魔に支配されています。そのため、今日、悪魔と戦うとは、信仰で恐れと戦うことを意味します。そして、死の世界が葬り去られ、最後の敵である死が滅ぼされる時、私達は完全に贖い出されるのです。

イエス・キリストは、見せかけの死ではなく、まことの死を選択するほどに、本気であなたを愛しておられます。あなたが何者であろうと、無条件で愛しておられます。この愛を素直に受け取って信じる時、あなたの罪はいやされ、心に平安が訪れ、あなたの中に喜びが湧き上がります。

十字架こそ、神様が本気で私達を愛している証しです。その方が、「大丈夫だ、心配するな」とあなたを励ましておられるのです。この愛を知れば知るほど、十字架以外に誇りとするものは何もないという思いに達します。神の愛を素直に信じて、平安を受け取りましょう。